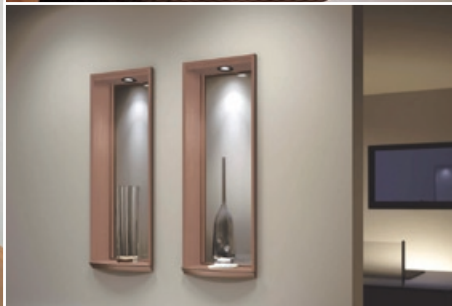
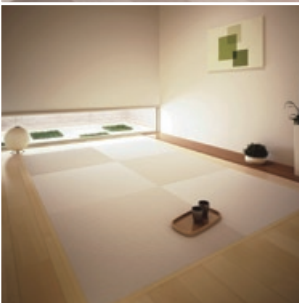




D.REPORT

第95期年次報告書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで



大建工業株式会社

証券コード 7905

地球にやさしく、人にやさしい。 環境発想のモノづくり。



DAIKENのモノづくりはエコ活動の歴史。

創業当初から再生資源や未利用資源を活かした、環境発想のモノづくりを行ってきました。

そして2011年、DAIKENは、地球と人の明日につなげる、エコネクストへ。

環境リーディングカンパニーとして、そして環境資源循環型企業として、

これまで培ってきた独自のノウハウとエコロジー技術を駆使しながら、

エコ素材を核に「高機能建材」を提供し、新しい暮らしの価値を上げていきます。

DAIKENの環境発想のモノづくり

間伐材、植林木の有効活用や未利用・再生資源の循環利用を積極的に進め、将来へ持続可能な循環型社会の実現に向けたモノづくりを行っています。

DAIKENのエコ製品

エコ台板

環境負荷の少ない植林木合板と木質再生資源を利用した特殊MDFを組み合わせたエコ基材。

MDF(中密度繊維板)

製材端材などを原料に使用しているグリーン購入法特定調達物品に該当するエコ素材。

ダイライト(DIL)

再生資源であるスラグウールと未利用資源である火山灰シラスを有効活用した無機質パネル。

ダイロートン(DL)

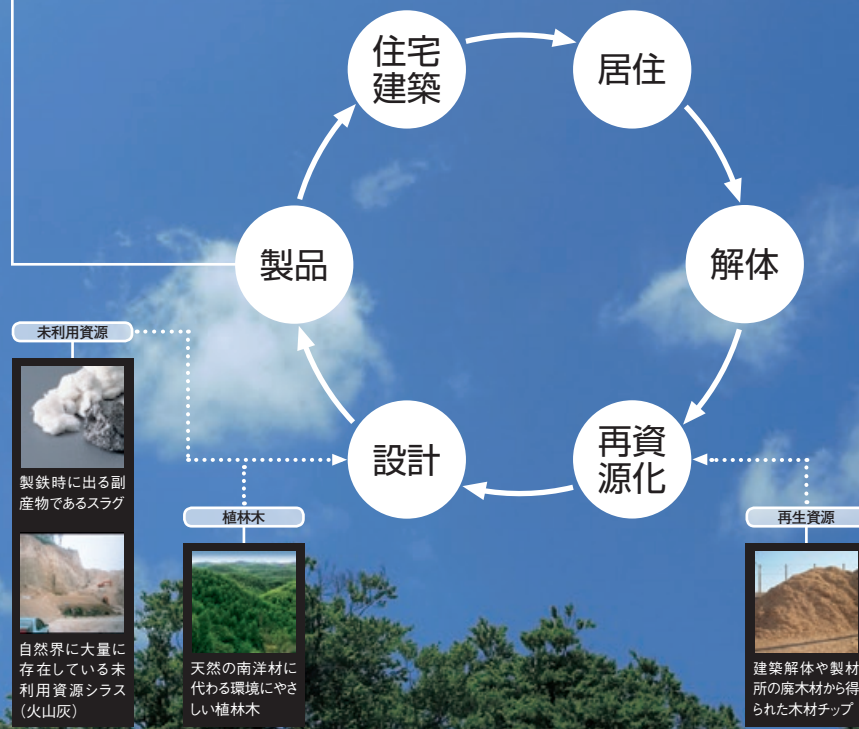
製鉄の副産物スラグを繊維化したスラグウールが原料。天井材などに利用されています。

インシュレーションボード(IB)

建築解体時の廃木材などを原材料に使用しているグリーン購入法特定調達物品に該当するエコ素材。

ハードボード(HB)

IBと同様、建築解体時の廃木材などを原材料に使用しているグリーン購入法特定調達物品に該当するエコ素材。



株主の皆様へ

To Our Shareholders

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第95期連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)における当社グループの営業の概況をご報告申し上げます。

当連結会計年度のわが国経済は、欧州の財政危機を背景として設備投資や雇用環境に不透明感が続いたものの、緩やかな輸出の持ち直しや内需回復等による企業業績の改善が見られ、長い停滞局面から回復軌道への移行が見られました。しかしながら3月11日に発生した東日本大震災により東北エリアは未曾有の被害を受け、緊迫感が漂う経済環境へと一変しました。

住宅市場におきましては、住宅取得を促進する各種施策が功を奏し、分譲及び持ち家が着実な伸びを維持したことで前年度の大規模な減少から回復基調をたどりましたが、平成22年度の新設住宅着工戸数は81万9千戸(前年度比5.6%増)と、依然として低水準で推移しています。

このような経営環境のもと、当社グループは新築住宅市場に次ぐ収益の柱を構築すべく、成長が見込まれるリフォーム市場、海外市場、産業資材分野及びエンジニアリング市場へ積極的に経営資源を投入し、攻略を進めました。環境発想のモノづくりを基軸にした当社グループのエコ素材(インシュレーションボード、ダイロートン、MDF、ダイライト、ハードボード、畳表、エコ台板)は、まさに昨今の環境配慮を求める市場ニーズを先見的に捉えた製品であり、エコや性能等を積極的に訴求することで各市場・分野での売上拡大を図りました。なお、東日本大震災の影響により被災エリアの物流機能が停止したため、当社グループにおいても東北・関東方面への製品出荷が一時的に滞りましたが、売上については前連結会計年度並みを確保いたしました。

一方、体質強化につきましては、総人件費の抑制をはじめ本社事務所や事業拠点の集約、統合による固定費の削減を図るとともに、物流体制の改革や物流費の削減を目的とした「物流

取締役社長
澤木 良次



改革本部」を設置するなど、損益分岐点の引き下げに努めました。これらの改革によりさらなる体質強化が進み、利益率は大幅な改善となりました。

今後の新設住宅着工戸数につきましては、低水準ながらも緩やかな回復傾向との従来予測でありましたが、年度前半は震災の影響による着工の遅れが想定され、先行き不透明な状況となっております。年度後半からは震災復興需要により着工戸数は伸びを示すと予測されますが、原材料価格の高騰や震災の影響による一部原料・資材の調達難など、生産面における懸念材料は多く、代替原料の検討やさらなる生産技術の開発等、一層の企業努力が求められる厳しい経営環境が続くものと予想されます。当社グループにおいては4月に設置した「復興支援室(拠点:仙台)」を活動の拠点として、エコ素材を中心とした建築材料を安定的に市場に供給し続けることで震災復興に貢献してまいります。同時に、2011年度よりスタートする「中期経営計画」に基づき、拡大・成長市場に対しさらなる積極的な経営資源の投入を行い、業容拡大を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

住空間事業

昨年5月にパナソニック電工株式会社と業務提携を行い、合板・シート・接着剤等、資材の共同購買によるコストダウンを図るとともに、お互いの得意分野にて相互OEM生産を行うなど、住空間事業全体としてのコスト競争力の強化を図りました。

床材を中心とする内装材事業につきましては、上記のとおりパナソニック電工株式会社と連携し、両社にて床基材のエコ化推進に取り組み、市場への定着を図りました。また、当社グループ出荷分に関してはエコ台板(植林木合板と特殊MDFを組合せた床基材)採用率100%に向けた着実な活動を行うとともに、生産拠点の集約に伴う業務体制の合理化と安定的な生産を行うことで

エコ事業

当社グループのコア事業であるエコ事業につきましては、ビル・店舗市場の工事物件数の減少等の影響により、天井材として使用されるダイロートンの売上は前連結会計年度を下回りましたが、インシュレーションボードにおいては、生産拠点の1つである東部大建工業株式会社高萩工場が震災の影響により生産停止となったものの、前連結会計年度を上回る売上を確保しました。また、ダイライトにおいても一時的に震災エリアへの製品出荷が滞りましたが、前連結会計年度を上回る売上を確保す

エンジニアリング事業

マンション・ビル・店舗市場につきましては、床工事を得意分野とする三恵株式会社を昨年12月に買収し、従来の天井工事を中心とした受注体制から、床工事を含めた複合受注を可能とする受注販売体制へと強化しました。また、首都圏エリアでの営業強化による新規受注の開拓に努めましたが、ビル・マンション市場の長引く低迷の影響により内装工事物件が減少し、工

収益面の改善を図りました。

住機製品事業につきましては、積極的な品質強化として海外調達を含めた総合的なコストダウンや生産拠点の見直し、受注品・特注品の短納期体制の構築による在庫削減などを進めました。販売面においては、108の色柄からサイズ・デザインをオーダーできる、自分だけのドア「Myドア」を発売し、お客様の多様な志向に対応する販売戦略で顧客満足度のさらなる向上を図りました。

この結果、住空間事業における当連結会計年度の売上高は764億77百万円(前年同期比2.6%増)、経常利益は31億34百万円(前年同期比46.5%増)となりました。

ると同時に、生産技術の継続的な改善により利益率の改善が進みました。MDFにおいては、国内市場でのエコ台板の普及をはじめとした新しい用途展開を進めたことで、売上を大きく伸ばしました。

なお、被災した東部大建工業株式会社高萩工場は5月30日より生産を再開しております。

この結果、エコ事業における当連結会計年度の売上高は445億35百万円(前年同期比5.0%増)、経常利益は13億18百万円(前年同期比160.6%増)となりました。

事高の減少及び工事単価の低下を招いたことから、収益は悪化しました。

戸建住宅につきましては、リフォーム需要の獲得を中心に営業展開を進めましたが、注文住宅、分譲一戸建の受注減少を補うまでには至らず、工事金額は減少しました。

この結果、エンジニアリング事業における当連結会計年度の売上高は116億18百万円(前年同期比29.3%減)、経常損失は1億10百万円(前年同期は経常損失35百万円)となりました。



▲オーダーできる「Myドア」



▲耐力面材「ダイライト」

注目の新製品(2010.4-2011.3)

WPC加工の耐傷性フローア
「エクオスファイン」

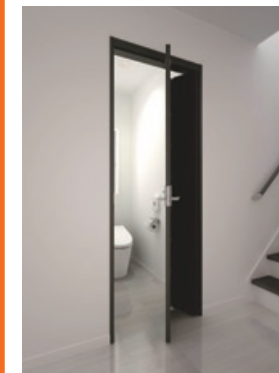
WPC加工独特の高級感あふれる広幅意匠の耐傷性フローア。植林木合板と特殊MDFを組合せたエコ台板を使用することで、循環



可能な森林資源の有効活用を図ることができます。

開閉時の無駄なスペースを1/3にする
「折戸ドア」

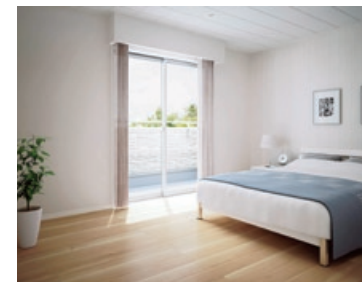
室内側への扉の飛び出し寸法が少なく、従来の片開きドアに



比べて、開閉に必要なだったデッドスペースが約1/3になる折戸タイプのドア。上吊式で床面にレールが無いため段差がなく、ドアを開けた際の通路幅(最大750mm)も確保できるので、車椅子での移動もスムーズです。

天然木の質感を表現した化粧シートフローア
「グラフィアート銘木柄」

天然木の美しさと質感を表現した特殊加工化粧シートを採用したフローア。より抑揚のある変化に富んだ室内空間を演出します。シート



表面のエンボス加工により本物のような触り心地を実現しました。

車椅子の移動もスムーズ
「高齢者居住施設向けドア」

有効開口が800mm以上あり、楽に開閉できる「にぎりバー」

タイプのハンドル付きドア。車椅子での移動もスムーズな敷居なしのバリアフリータイプです。閉める直前にゆっくり扉を引き込み、きっちり扉を閉めるラクラクローズ機能や、手を放すと内蔵クローザーが自動的に扉を閉める自閉機能付も選べます。



TOPICS 1 「TDYグリーンリモデルフェア」を開催

TOTO・DAIKEN・YKK AP合同イベント、「TDYグリーンリモデルフェア」を名古屋(2010年10月)、大阪(同年11月)、福岡(2011年2月)の3会場で開催し、延べ4万8千名の来場で盛況となりました。



フェアでは、TDY3社の協同テーマ「グリーンリモデル」(※)と、その具体的な提案方法として「グリーンリモデル診断」をアピールしました。リフォーム工事を始める前の診断によってリフォームされた家の実物モデルを展示して、より長く快適に住み続けられる住まいづくりのイメージをわかりやすく伝えました。またDAIKENのコーナーでは、調湿建材や傷のつきにくい床材、室内ドア等の機能性を体感して頂けるよう工夫された展示内容で、来場者にDAIKEN製品への理解を深めて頂くことができました。

(※)グリーンリモデル
TOTO・DAIKEN・YKK AP3社それぞれの技術を活かして、「健康配慮」「長もち住宅」「CO₂削減」という3つのテーマを実現する商品・空間づくりの提案です。家族それぞれのライフスタイルや暮らしの夢に応えながら、人にも地球にもやさしい住まいを実現しようとする取り組みです。

TOPICS 2 国内最大の環境展示会 「エコプロダクツ2010」にエコ素材出展

当社は、2010年12月9～11日の3日間、東京ビッグサイトで開催された国内最大の環境展示会「エコプロダクツ2010」に、シラスバルーン(火山灰の発泡体)や木質繊維板等を出展し、DAIKENの手がけるエコ素材の可能性を訴求しました。

エコプロダクツ展には、エコへの取り組みをアピールする場として、多数の企業や行政が出展し、幅広い業界から来場者が集まります。12回目を迎えた今回は「2020年までに温暖化効果ガスの25%削減」を目標に、持続可能な社会を実現するために今何ができるのかを考える場となりました。

DAIKENコーナーでは、木質繊維板の「緑化用保水板」、シラスバルーンを活用した「水浄化剤」、また「和紙で出来た畳表」など、環境配慮の素材とそのユニークな用途に関心が集まりました。

TOPICS 3 「工場グリーンリモデルフェア」を開催 地元の方々に生産工程・製品機能を披露

2010年11月、岡山大建工業株式会社(岡山市)で、「工場グリーンリモデルフェア」を開催しました。同フェアは、高萩(同年3月)、井波(同年6月)に続いて、3ヶ所目の開催となり、地元岡山エリアの方々に工場を公開しました。生産ラインやショールームを披露する中で、DAIKEN製品の数々を直接ご覧頂き、その機能性をご理解頂きました。またこうした地元の方々とのふれあいの場を通じて、DAIKEN製品によるリフォームの需要創出を図りました。



東西のショールームでイベント開催! 幅広い製品提案力をアピール

当社は、2009年9月、秋葉原に東京ショールームを開設、また2010年7月、大阪(梅田)にTOTO・DAIKEN・YKK AP3社共同のコラボレーションショールームをオープンしました。

ショールームでは、直接ユーザーのご要望やご相談に対応する情報拠点として、様々なイベントや相談会、研修会を開催しています。防音相談会、耐震リフォーム相談会、収納セミナーなど、DAIKENの幅広い製品提案力をアピールする場となっています。

2011年3月に大阪ショールームで開かれた「耐震リフォーム相談会」では、耐震補強に最適なDAIKENの「かべ大将」を推奨工法として訴求しました。



ショールームでは一般ユーザーをはじめ、流通・施工業者などを対象にセミナーや研修会を開催しています。

■ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 平成22年3月31日現在	当連結会計年度 平成23年3月31日現在
資産の部		
流動資産	60,090	55,233
固定資産	63,730	60,639
有形固定資産	41,548	39,649
無形固定資産	1,945	2,026
投資その他の資産	20,236	18,963
繰延資産	40	96
資産合計	123,862	115,969

科目	前連結会計年度 平成22年3月31日現在	当連結会計年度 平成23年3月31日現在
負債の部		
流動負債	61,366	55,162
固定負債	25,832	23,967
負債合計	87,199	79,130
純資産の部		
株主資本	33,288	33,580
その他の包括利益累計額	△75	△273
少数株主持分	3,449	3,533
純資産合計	36,663	36,839
負債純資産合計	123,862	115,969

■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	当連結会計年度 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
売上高	140,936	141,506
売上原価	104,325	102,345
売上総利益	36,610	39,161
販売費及び一般管理費	33,600	34,812
営業利益	3,010	4,349
営業外収益	871	982
営業外費用	1,062	957
経常利益	2,819	4,373
特別利益	150	1,354
特別損失	2,890	2,263
税金等調整前当期純利益	79	3,464
法人税、住民税及び事業税	1,141	803
法人税等調整額	△1,603	1,192
少数株主損益調整前当期純利益	—	1,469
少数株主利益	29	93
当期純利益	511	1,375

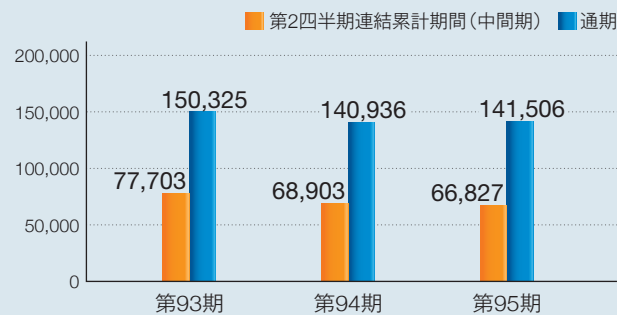
■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

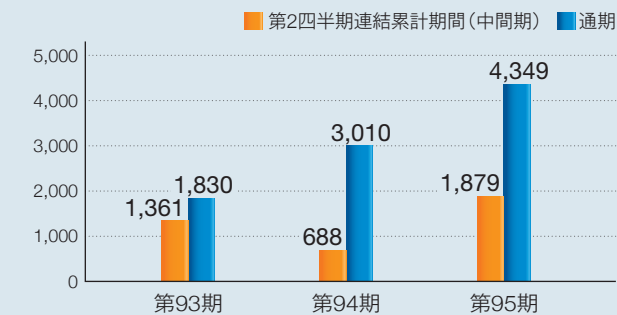
科目	前連結会計年度 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	当連結会計年度 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,141	4,438
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,286	△2,618
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,135	△7,095
現金及び現金同等物に係る換算差額	209	△24
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,199	△5,299
現金及び現金同等物の期首残高	9,730	10,935
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	4	81
現金及び現金同等物の期末残高	10,935	5,716

■ 連結業績の推移

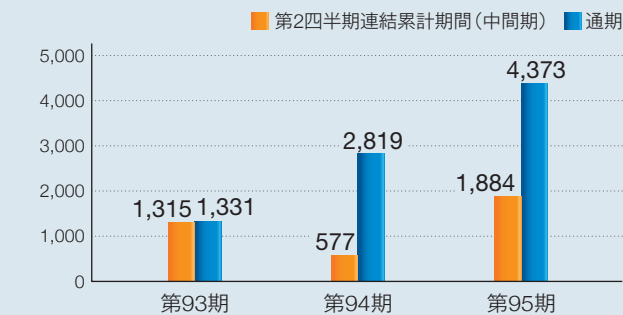
売上高 (百万円)



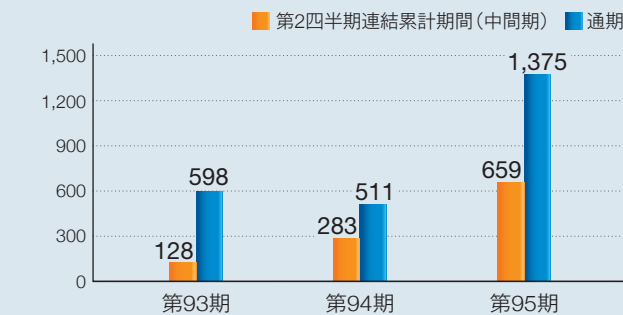
営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



当期(四半期)純利益 (百万円)



■ 会社の概要 (平成23年3月31日現在)

設立年月日 昭和20年9月26日

資本金 131億5,003万9,080円

本社及び事業所

本店 富山県南砺市井波1番地1

本社大阪事務所 大阪市北区堂島1丁目6番20号

東京事務所 東京都千代田区外神田3丁目12番8号

主要な営業所 札幌、仙台、さいたま、東京、名古屋、金沢、大阪、広島、高松、福岡

海外営業拠点 上海、シンガポール、ソウル、台北

国内生産工場 東部大建工業株式会社
《茨城県高萩市、福島県会津若松市》
井波大建工業株式会社《富山県南砺市》
岡山大建工業株式会社《岡山市》
富山住機株式会社《富山県砺波市》
株式会社ダイウッド《三重県伊賀市》
三重ダイケン株式会社《津市》
株式会社ダイフィット《鳥取県倉吉市》
株式会社サンキ《富山県高岡市》
株式会社ダイタック《岡山市》
セトウチ化工株式会社《岡山市》

海外生産工場 大建工業(寧波)有限公司(中国)
DAIKEN MIRI SDN. BHD. (マレーシア)
DAIKEN SARAWAK SDN. BHD. (マレーシア)
DAIKEN NEW ZEALAND LIMITED
(ニュージーランド)

■ 役員 (平成23年6月29日現在)

取締役	澤木良次
代表取締役社長	藤井克巳
代表取締役副社長	金坂和正
専務取締役	岩本真一
取締役	億田正則
取締役	長谷川泰健
取締役	山中健智
取締役	加藤明隆
社外取締役	相原隆

監査役	伊藤章倫
常勤監査役	加藤猛雄
社外監査役	宇塚俊夫
社外監査役	水野浩児

執行役員社長	澤木良次
執行役員副社長	藤井克巳
専務執行役員	金坂和正
専務執行役員	岩本真一
常務執行役員	億田正則
常務執行役員	長谷川泰健
常務執行役員	谷津村喜久雄
常務執行役員	今山健修
上席執行役員	山吉原田一博
上席執行役員	島田達夫
上席執行役員	波谷敏夫
上席執行役員	冬木川隆雄
執行役員	北畑島正志
執行役員	吉田弥寿郎
執行役員	菊竹信夫
執行役員	杉本寛明
執行役員	川島光志
執行役員	照林尚
執行役員	播磨哲男

■ 株式の状況 (平成23年3月31日現在)

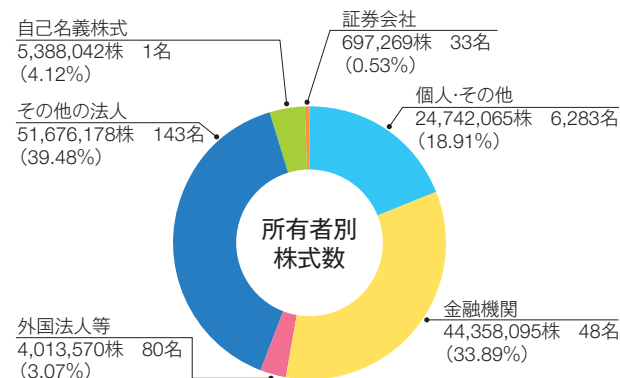
発行可能株式総数	398,218,000株
発行済株式の総数	130,875,219株
株主数	6,588名

■ 大株主の状況 (平成23年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	31,948	25.5
株式会社三井住友銀行	4,934	3.9
住友生命保険相互会社	4,656	3.7
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	4,457	3.6
住友信託銀行株式会社	4,440	3.5
日本生命保険相互会社	3,409	2.7
住友林業株式会社	3,191	2.5
丸紅株式会社	2,821	2.2
三井住友海上火災保険株式会社	2,608	2.1
農林中央金庫	2,318	1.8

(注) 1. 当社は、自己株式を5,388千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 株式分布状況 (平成23年3月31日現在)



当社のホームページでも
詳しい情報を開示しております。

<http://www.daiken.jp/>

大建工業 検索



TOPページ「会社情報」をクリックしてください。



「会社情報」の「株主・投資家の皆様へ」をクリックしてください。

情報サイトの一部



「株主・投資家の皆様へ」では、社長メッセージをはじめ、決算短信・業績ハイライト・有価証券報告書などの各種財務情報や、IRイベント情報などの豊富なデータがご覧いただけます。ご利用ください。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月開催		
基準日	定時株主総会	毎年3月31日	
	期末配当金	毎年3月31日	
	中間配当金	毎年9月30日	
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日		

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-176-417

(インターネットページ) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます）を開設いたしております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

【上場株式配当等の支払いに関する通知書について】

租税特別措置法の平成20年改正（平成20年4月30日法律第23号）により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りすることになっています（同封の「第95期期末配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります）。
なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます。

公告の方法 電子公告（当社のホームページに掲載する）
<<http://www.daiken.jp/>>

上場証券取引所 東京、大阪証券取引所



DAIKEN

<http://www.daiken.jp/>

大建工業株式会社